



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

とうきょう すくわくプログラム

活動報告書

久米川なかよし保育園

よつばぐみ（2歳児）

1 活動のテーマ

自然

2 問いを考える

自然の葉っぱ

- 1 1月 自然をみつけよう
- 1 2月 自然物にふれよう
- 1月 葉っぱで遊ぼう
- 2月 自然物を観察しよう
- 3月 自分の目から見える自然

3 環境をデザインする 活動のために準備した素材や道具

- バケツ、シャベル
- カメラ
- 顕微鏡
- 散歩用バッグ
- 絵の具
- ローラー

散歩先で見つけた自然物により興味を広げられるように声を聞いていく。観察したいものは、その場で直接触れ顕微鏡を通してより深く観察していく。カメラからは自分の視点から見える自然物を撮影し友だちにも共有していく

4 探究活動の実践

虫のおうち
あるかな？



ふみふみ

葉っぱの
シャワー



葉っぱなのに
ピーマンみたい



カシャリ



これ(顕微鏡)で
みると穴が
あいてる！！



5 振り返り

いつもの散歩先だが、季節によって変化があり子どもたちの遊び方も変化していた。友だちと葉を集めてお風呂に見立てたり遊びを楽しんだり、ひとりで黙々と葉や花びらを集め顕微鏡で観察することを楽しみしていた。

顕微鏡からの世界と肉眼からみる世界の違いに気づく。顕微鏡から見た時に、小さな穴や見えない微生物がついていると「虫のお家だったのかな!？」などと想像を膨らませていた。

カメラを1人1台持つことでその子の視線や視点を知ることができた。自然物だけでなく人物や物など興味のある物の違い、撮り方の違いを楽しみながら観察できたので違いが面白かった。

自然

顕微鏡の使い方に苦戦する姿もあったが回数を重ねることで使用がスムーズになった。また、お互いが発見したものを共有しながら「なにかな?」「お野菜みたい」と身近なものに例えながら話をしていた。

葉っぱや花を収集する際に「これなんて花?」と興味を持つ姿が増えた。他の場所で見つけた際も「これツバキだね」と発見することができた。

散策に何度も行くことで、子どもたちから「みどりのはっぱ拾いに行きたい」「虫探しに行こう」と発信してくれることが増えた。散策先でも友だち同士で「ここに虫いるよ」などのかわりも増え交流が深まった